

令和6年度第1回

豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 議事録

日 時：令和6年7月24日（水）

午後2時～午後4時

場 所：市役所南庁舎7階 南74委員会室

Web併用会議

■ 出席者

（豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会委員）

※敬称略・五十音順

所属機関・団体名	氏 名	出欠
豊田市社会福祉協議会常務理事	安藤 広重	○
豊田市高齢者クラブ連合会会長	稲垣 令一	○
市民公募	岩佐 伸雄	○
豊田市民生委員児童委員協議会高齢者福祉部会長	梶 鐘治	○
豊田市介護サービス機関連絡協議会副会長	傍嶋 博志	○
豊田市ボランティア連絡協議会書記	田中 すい子	○
豊田加茂歯科医師会監事	谷川 博伸	○
日本福祉大学中央福祉専門学校校長	長岩 嘉文	○
中京大学現代社会学部准教授	中田 雅美	○
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会会長	藤江 貴紀	○
豊田市ファミリー・サービス・クラブ顧問	三崎 祐子	○
豊田加茂医師会理事	山口 貴之	×
豊田加茂薬剤師会副会長	山田 雄三	○

■ 豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の取組実績について(報告事項)

【議題2】令和6年度高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施事業について

(報告事項)

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】地域包括支援センター運営要綱の一部改正について(承認事項)

【議題2】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について(承認事項)

【議題3】令和5年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算について(承認事項)

【議題4】令和5年度地域包括支援センター事業評価結果の概要について(承認事項)

【議題5】令和6年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について(承認事項)

3 連絡事項

〔 議 事 内 容 〕

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の取組実績について(報告事項)
概要説明(高齢福祉課)

- ・ 第8期計画の重点施策及び一般施策の取組実績の報告
- ・ 第9期計画における新規及び拡充事業の説明

(会長)

第8期計画の重点施策の総括を中心に説明いただいた。3年計画の2年目まではコロナ禍であり、人が集まる取組が難しかったということである。目標達成状況は令和5年度末の割合ということによろしいか。

(事務局)

そのとおり。

(会長)

ご意見・ご質問などはいかがか。

(委員)

高齢者の生きがいづくりの場所作りとあるが、地域による偏りなく、山間部にも場所づくりはできているか。

(事務局)

活動支援箇所は交流館やおいでん山村センター(足助)にあり、市域全体に設置されている。また担当課から、場所に限らずマッチングができるようにWEBシステムの活用も検討していると聞いている。地理的課題を克服するよう取組んでいる。

(委員)

交流館を中心に市内各地区で進められていることが分かった。コロナ禍でコミュニケーションをとる場が閉鎖し、その後元に戻らないという声も聞いている。引き続き対応を進めていただきたい。

(会長)

県の会議でも、一度停滞した活動を住民主体性で元に戻すのは難しいため、行政に限らずどこかがテコ入れする必要があるという意見があった。

(委員)

SIB を活用した社会参加型介護予防事業のプログラムが 50 種類もあるということだが、どのようなものがあるのか。また、参加者は多いが継続者が少ないという理解でよいか。

(事務局)

事業内容については、ヨガや転倒予防トレーニング、ミュージックサロン等様々な事業が展開されている。HP に記載がある。現在は、参加者総数は多いが継続者数は目標に至っていない状況である。成果報酬であるため、参加人数に応じて事業者報酬を払うが、市としては継続者を増やすため、継続者に対して高い報酬を設定している。新規参加者の獲得に力を入れるか、継続者を増加させるような事業とするかは事業者の選択の余地がある設計となっている。

(会長)

介護予防目的の事業で、担い手にインセンティブを与えて効果を挙げようという理解でよろしいか。

(事務局)

そのとおり。

(委員)

計画の目標設定はどのように決めているのか。また、新規事業の介護人材ベースアップ事業に参加したが、有効な内容であったため、より多くの事業者が参加できるよう周知に力を入れてほしい。次回このような機会があれば、周知に協力していく。

(事務局)

目標については、3 か年で 1 度、計画策定年度に各事業で実績等を踏まえながら設定し、計画書に記載したものであり、各年度進捗管理を実施している。実際に事業を推進してみると、目標と実績に乖離が発生することもあるが、これまで計画修正に関する決まりがなかった。第 9 期計画については、状況に応じて目標変更が必要な可能性もある。

(委員)

SIB を活用した社会参加型介護予防事業と元気アップ事業は同じ事業か。

(事務局)

別の事業である。元気アップ事業は、市が直営で自治区や高齢者クラブで参加者を募って開催している。

(委員)

SIB を活用した社会参加型介護予防事業は後何年実施するのか。

(事務局)

全体で5年間であり、2026年度の6月までを予定している。

(委員)

参加者が高額な費用を支払って参加するのは継続が難しいため、低価格で参加できるといい。また、自治区等の声を聞いても継続者は少なく、事業を知らない人も多い。

(事務局)

事業内容については、パンフレット等で周知している。事業所への成果報酬は市が支払う仕組みであるが、民間のアイデアや人員を活かす事業である。参加者の継続性については難しい部分があると聞いている。

(委員)

事業内容について、高齢者の立場にたって企画してほしい。

(会長)

約50種類のプログラムがあるのは魅力的だが、市民にとっては類似の事業等もあり、掴みにくい部分もあるかもしれない。

概要説明（介護保険課）

- ・ 介護保険事業の実績一覧の説明

(会長)

居宅療養管理指導について、薬局を中心に利用者が増加とあるが、背景事情はあるか。

(事務局)

市で医療と介護の連携を進めているため、医師や薬局に協力していただけたと推測している。

(委員)

薬剤師会としては、在宅の方の居宅療養管理指導が求められているため、各薬局で勉強を重ねて居宅療養管理指導に参加していこうという意識がある。研修を進めるとともに参加する薬局数も増えてきている。経験を積んだ薬局が複数の方の居宅療養管理指導をするようになり数が増えてきている。まだ不慣れな薬局もあるが、今後も増えていくと思われる。

【議題2】令和6年度高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施事業について（報告事項）

概要説明（健康づくり応援課）

- ・ 事業内容について報告

(委員)

自分の地区では元気アップ教室を14自治区すべてが実施しており、その他にも社協事業やずっと元気プロジェクトにも参加している。元気アップ教室後の自主活動グループにもっと出向いてほしい。

(事務局)

定年延長等により地域に後期高齢者が増えているため、介護予防教室のあり方を検討する必要があると考えている。ご意見ありがとうございます。

(委員)

集団指導は75歳以上の方が集まったら利用できるのか。

(事務局)

集団指導（ポピュレーションアプローチ）については、元気アップ教室終了後の自主

活動グループを対象に実施している。それ以外のフレイル状態にある可能性がある方については、個別に出向いて支援を実施する。集団指導と個別支援の両方でフォローしていきたい。

(委員)

生活習慣病等の基礎疾患がありフレイル状態にある者についてはどのようにピックアップしているのか。

(事務局)

前年度の特定健診受診時の生活習慣アンケートの回答から、フレイル状態にあると推測される方に家庭訪問をしている。

(委員)

ハイリスクアプローチについては地域性を考慮しているか。

(事務局)

一律にアンケート回答からフレイル状態にあると推測される市内全域の方を対象にしている。

(委員)

対象者の住む地域は結果的に偏っている可能性も、分散している可能性もあるということか。

(事務局)

そのとおり。

(会長)

対象抽出は国保のデータベースから抽出するということか。

(事務局)

そのとおり。

(会長)

イの健康状態が不明な方の支援のみ1か月時期ずれているのはなぜか。

(事務局)

市の人員の問題で順次開始している。

(委員)

歯科でも後期高齢者医療広域連合から歯科検診の中に口腔機能低下の検査を追加してほしいと言われている。全国的には80%、愛知県では20%未満の展開率であるが、豊田市ではまだ着手していない。今後の事業展開を検討している。歯科でも問診にオーラルフレイルの説明を入れていただけると事業展開しやすいので検討いただきたい。

ハイリスクアプローチの対象者数とこの事業に対応している人数はどのくらいか。

(事務局)

事業対象者はア生活習慣病等の重症化予防が80名、イ健康状態が不明な方の支援が60名を予定している。昨年度のイ健康状態が不明な方の支援では、ほとんどの対象者に対して家庭訪問を実施し、3名は電話で対応した。その結果、半数以上は健診受診や病院受診、要介護認定申請のために地域包括支援センターへつなぐ等、なんらかのアプローチが必要であったので今回も極力全件訪問していきたい。

(会長)

ハイリスクアプローチのイ健康状態が不明な方の支援では、生活困窮と重なるケースがあるのではないか。

(事務局)

個別の事情までは不明だが、4名を地域包括支援センターにつないでいる。

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】地域包括支援センター運営要綱の一部改正について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 改正内容についての説明

（会長）

内容については以前の会議で承認しているが、要綱は未改正であったため今回の議題となっている。

では、承認いただける方は、挙手をお願いしたい。

（承認の確認）

承認されたので、次の議題に移る。

【議題2】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所等の説明

（委員）

議題の趣旨は承知しているが、現場ではケアマネジャー不足で委託先がなく、お願いできる事業所を必死に探している状況であることを付け加えたい。

（委員）

他市の地域包括支援センター運営協議会でも地域包括支援センターの負担軽減のために居宅介護支援事業所に委託することを話し合うが、先ほどの委員の意見のように委託先がないという実情がある。議題の内容に異議はないが、表出していること以上に地域包括支援センターの業務荷重は大きいと思う。今回承認する委託先が少ないこと及び利用者の希望以外でも、地域包括支援センターが居宅介護支援事業所にケアマネジメント業務を委託できる方向に検討する必要があると思う。

（事務局）

ご意見については、長年の課題である。委託数が少ないという課題もあるため引き続き

検討していく。

(会長)

この4月から居宅介護支援事業所が予防プランを直接担当でき、報酬も少し高くなるという改正があったが、豊田市の現状はいかがか。

(事務局)

指定を取った事業所は1か所あり、相談を受けている事業所が1か所ある。

(会長)

厳しい現状であると感じる。名古屋市では居宅介護支援事業所約680事業所の内、直接予防プランを担当すると申請があったのは66事業所で、全体の1割に満たない状況である。様子見の部分もあるかもしれないが、担当課は大きく増えないだろうと考えているようである。他に北名古屋市では居宅介護支援事業所11事業所のすべてが申請しないようである。

では、承認いただける方は、挙手をお願いしたい。

(承認の確認)

承認されたので、次の議題に移る。

【議題3】令和5年度地域包括支援センター事業報告及び収支決算について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業報告、収支決算の説明

(委員)

認知症地域支援推進業務について、本学でも地域包括支援センターにお世話になり、2年生が認知症サポーター養成講座を受けている。金融機関や警察関係、病院職員への周知が進んだことは素晴らしいと思う。

(委員)

コロナ禍から世の中が緩和傾向になっている中で、活動の母数や参加人数が増えているが、活動を支える包括職員は増えていないことが一番の課題であると考えます。収支決算の

介護報酬も前年度に比べ 1,000 万円増えており、件数が増えているということである。豊田市の包括事業を充実させるために、市でも引き続き人材確保策を検討していただきたい。

(会長)

地域包括支援センターのスタッフは定年を控えた方が多いような年齢構成か。

(委員)

そうではない。

(委員)

居宅介護支援事業所が介護予防支援の指定を受ける際、要支援者 3 件で要介護者 1 件の換算ができるとは言っても、労力がかかるため介護予防支援の実施は進まない印象である。本法人としては他市で指定を受け、その動向を見ながら豊田地区でも移行するか検討していく。導入に関してはスタートから踏み出せない事業所もあるので、サービス機関連絡協議会で連携していきたい。機器の導入に関する市の補助もあるといい。改善によって居宅介護支援事業所の受け皿が拡大すると、地域包括支援センターで本来の包括業務ができるようになると思う。

(委員)

収支決算で合計が赤字になっている地域包括支援センターがあるが、どのような状況か。

(事務局)

委託では出せない経費もあるので、持ち出しで実施している地域包括支援センターもあると聞いている。

(委員)

認知症サポーター養成講座とステップアップ講座に参加した感想だが、1つの講座を2回に分けて実施するなどすると参加のハードルを低くできるのではないかと思う。

(事務局)

認知症サポーター養成講座は、基本的には 90 分が 1つの講座となっている。高齢者向けは負担軽減のため 60 分でも実施できる。企業等の方向けには、認知症サポーターの証明書は渡せないが、短時間のミニ講座も開催しており、認知症に関する知識や対応を学ん

でもらうため、相手方の希望時間に応じて講座も開催している。

(委員)

参加しやすくすることでより多くの方に認知症について学んでもらえていいと思う。

多職種で自立支援を考える会について、薬剤師も積極的に参加したいのでアナウンスしてほしい。

(委員)

収支決算のことについて、道路を作る国の事業の場合、現場管理費と一般管理費があり、現場管理費は精算するが、一般管理費は一定割合を事業所の取り分としてリスク管理に活用するという考え方がある。地域包括支援センターの事業では一般管理費も精算するため、頑張れば頑張るほど法人に負荷がかかる仕組みになっている。特に民間の事業所は負担がかかる。法令上可能なのであれば、施設長が頑張ることができる仕組みを検討してほしい。

(事務局)

法令や交付金の状況を加味しながら検討したい。

(会長)

名古屋市は定期的にプロポーザルで地域包括支援センターの運営事業所を決める。プロポーザルの際に手を下げてしまう事業所もあり、追加募集に応募がなければ、手を下げた事業所をお願いしなければいけない状況もある。金銭面だけでなく人材確保も課題となっているため、工夫してほしい。

(会長)

では、承認いただける方は、挙手をお願いしたい。

(承認の確認)

承認されたので、次の議題に移る。

【議題4】令和5年度地域包括支援センター事業評価結果の概要について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業評価結果の説明

(会長)

全体的には順調に運営しているという評価である。特に資料3別添12ページ以降の各センターの具体的取組は読みごたえがあるものになっている。

関連する次の議題の説明もお願いしたい。

【議題5】令和6年度地域包括支援センター事業計画及び収支予算について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 事業計画・収支予算の説明

(委員)

民生委員の立場からすると地域包括支援センターにはお世話になっている。サロンや元気アップ教室に行くための足がなく、本当は行きたいのに行けないという声が多い。民生委員もバスの活用などを模索しているが、市でも移動手段や適切な活動場所についても検討してほしい。

また民生委員は高齢者で引きこもりになっている方が多いということで、外に出てもらう方法を考えているが、市でもサロンや認知症カフェを広げるよう検討してほしい。民生委員も声掛け等で協力していく。

(事務局)

足がないことについては、長年の課題となっているが、調べてみると近くに集まる場所が見つかることもある。そのため現在地域資源マップを整備している。地域包括支援センターが把握している、より小さい単位での集まりも地図に落としている。お困りの方がいれば、地域包括支援センターに相談すると、集まる場が近くにあるかもしれない。

バスについては、市内に交通網を張り巡らせているが、乗り方がわからない方も多いようである。地域包括支援センターと一緒にバスの乗り方の周知や体験などもしていきたい。引き続き地域の方にも協力をお願いしたい。

(委員)

足がないから家から出られないという声が多い。バス停にも坂があると歩いて行けない、日中独居で誰とも話していないという声もある。集まる場所があることは分かっているがなかなか一歩が出ないそう。そのような方への支援ができればと思う。

(会長)

地域包括支援センターの守備範囲を超える話ではあるが、高齢者保健福祉計画や地域福祉計画のテーマにも関わることなので引き続き事務局に協議してほしい。

(会長)

議題4及び議題5について承認いただける方は、挙手をお願いしたい。

(承認の確認)

すべての承認事項が承認されたが、全体について、いかがだろうか。

(委員)

様々な活動を高齢者クラブ等元気高齢者と協力し、実施してはどうか。元気高齢者の活躍の場にもなると思う。地域の力を集結させて、同じ目標に向かっていかないと地域は活性化しない。これまでのやり方では特に福祉はパンクしてしまう。各団体が地域で同じような目標を持って活動をしているので、個々に活動するのではなく、連携していくことでより地域のためになると思う。高齢者は過去の災害時にも地域で活躍している。

(会長)

地域の組織や団体も結果的に縦割りになってしまう。目標としては共通していることがあるので、まとまって取組むことができれば、より大きな力にもなるし効率的だというご提案です。

(委員)

地域共生社会はみんなで作っていくものである。各機関で協力していきたいと思う。

(会長)

議事を終えたので、ここからの進行は事務局をお願いしたい。

3 連絡事項

概要説明（介護保険課）

- ・ 次回の予定について説明

(事務局)

以上を持ちまして、令和6年度第1回豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会を終了します。ありがとうございました。

以上